

## 令和2年度美濃加茂市水道事業決算概要

### ① 業務実績について

令和2年度末における給水人口は、前年度と比較して117人(0.21%)減少したものの、給水件数は、前年度と比較して288件(1.63%)増加しました。要因としては、集合住宅の住民が転出した場合、人口は減少しますが、集合住宅の給水件数は1棟1件のまま減少しないことや、住宅の新築などにより口径13mm(前年度比214件増)及び口径20mm(前年度比66件増)などの家庭用の給水件数が引き続き伸びていることなどが考えられます。

また普及率は99.48%となり、前年度と比較して0.04ポイント増加しました。

	令和2年度	令和元年度	比較増減	増減率(%)
行政区域内人口(人) ①	57,171	57,308	△ 137	△ 0.24
給水人口(人) ②	56,872	56,989	△ 117	△ 0.21
給水件数(件)	17,958	17,670	288	1.63
普及率(%) ②/①	99.48	99.44	0.04	—

次に、年間配水量は、31,110m<sup>3</sup>(0.47%)増加、年間有収水量は、54,242m<sup>3</sup>(0.92%)増加しました。

また、有収率は、89.25%となり、前年度と比較して0.40ポイント増加しました。

	令和2年度	令和元年度	比較増減	増減率(%)
年間配水量(m <sup>3</sup> ) ①	6,686,139	6,655,029	31,110	0.47
年間有収水量(m <sup>3</sup> ) ②	5,967,201	5,912,959	54,242	0.92
有収率(%) ②/①	89.25	88.85	0.40	—

### ② 予算執行状況について(税込み)(※予算額と比較するため、税込み表示をしています。)

#### ア. 収益的収支(3条)

収益的収入は、予算に対し93.98%の収入率で、104,523,280円の減収となりました。

収益的支出は、予算に対し88.37%の執行率で、194,522,143円の残額を生じました。

なお、納付消費税及び地方消費税額は、27,027,800円となりました。

	予算額(円)	決算額(円)	差引(円)	収入率(%)
水道事業収益	1,736,529,000	1,632,005,720	△ 104,523,280	93.98
営業収益	1,331,550,000	1,318,970,048	△ 12,579,952	99.06
営業外収益	404,979,000	313,035,672	△ 91,943,328	77.30

	予算額(円)	決算額(円)	不用額(円)	執行率(%)
水道事業費用	1,672,257,000	1,477,734,857	194,522,143	88.37
営業費用	1,614,268,000	1,429,454,001	184,813,999	88.55
営業外費用	52,969,000	48,280,856	4,688,144	91.15
特別損失	20,000	0	20,000	0.00
予備費	5,000,000	0	5,000,000	0.00

イ. 資本的収支(4条)

資本的収入は、予算に対し98.15%の収入率となり、8,632,129円の減収となりました。この原因は、主に工事負担金の減収によるものです。

資本的支出は、予算に対し75.24%の執行率となり、翌年度繰越額8,523,000円を除く193,565,060円の不用額が生じました。この内訳は、建設改良費131,564,946円、企業債償還金114円、長期貸付金62,000,000円です。

配水設備拡張費の執行額は、47,112,715円(令和元年度からの繰越事業を含む)で、主なものは、緊急連絡管布設工事(森山配水池工区)、配水補助管布設工事(川合町4丁目工区)です。

配水設備改良費の執行額は、326,699,559円で、主なものは、配水管布設替工事(山手幹線第1工区、駅北第2工区、広橋第2工区、作り洞第1工区)です。

また、建設改良費の繰越として配水補助管布設工事(山手町三丁目工区)等3件8,523,000円を翌年度へ繰越しました。

企業債償還金101,191,886円は、地方公共団体金融機構の24件と政府資金(財政融資資金)の19件の元金の償還金です。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額157,181,464円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 17,659,736 円、減債積立金101,191,886円及び過年度分損益勘定留保資金 38,329,842円で補てんしました。

	予算額(円)	決算額(円)	差引(円)	収入率(%)
資本的収入	465,675,605	457,043,476	△ 8,632,129	98.15
負担金	57,112,605	40,021,476	△ 17,091,129	70.07
分担金	79,563,000	88,022,000	8,459,000	110.63
補助金	29,000,000	29,000,000	0	100.00
投資有価証券	300,000,000	300,000,000	0	100.00

	予算額(円)	決算額(円)	翌年度繰越額(円)	不用額(円)	執行率(%)
資本的支出	816,313,000	614,224,940	8,523,000	193,565,060	75.24
建設改良費	515,121,000	375,033,054	8,523,000	131,564,946	72.80
企業債償還金	101,192,000	101,191,886	0	114	100.00
長期貸付金	200,000,000	138,000,000	0	62,000,000	69.00

③ 経営成績について(税抜き)(※経営成績を正しく表示するため、税抜き表示をしています。)

令和2年度の損益は、総収益1,514,845,684円に対し、総費用1,378,775,147円で、差し引き136,070,537円の純利益となりました。

ア. 収益比較

水道事業収益は、1,514,845,684円で、前年度と比較すると3,270,701円(0.22%)の減収となりました。

営業収益は、1,199,205,179円、総収益の79.16%を占めており、科目別に前年度と比較すると、給水収益2,803,820円(0.24%)減、受託工事収益5,265,755円(73.65%)減、その他営業収益1,713,338円(8.51%)減で、全体では3,270,701円(0.22%)の減収となりました。

営業外収益は、315,640,505円で、前年度と比較すると、受取利息及び配当金620,613円(32.33%)減、長期前受金戻入益1,701,971円(0.56%)減、雑収益594,796円(13.72%)増で、全体では6,512,212円(2.11%)の増収となりました。

科目	令和2年度(円)	令和元年度(円)	増減額(円)	増減比(%)
水道事業収益	1,514,845,684	1,518,116,385	△ 3,270,701	△ 0.22
営業収益	1,199,205,179	1,208,988,092	△ 9,782,913	△ 0.81
給水収益	1,178,894,355	1,181,698,175	△ 2,803,820	△ 0.24
受託工事収益	1,884,356	7,150,111	△ 5,265,755	△ 73.65
その他営業収益	18,426,468	20,139,806	△ 1,713,338	△ 8.51
営業外収益	315,640,505	309,128,293	6,512,212	2.11
受取利息及び配当金	1,299,188	1,919,801	△ 620,613	△ 32.33
他会計負担金	240,000	0	240,000	—
長期前受金戻入益	301,171,531	302,873,502	△ 1,701,971	△ 0.56
雑収益	4,929,786	4,334,990	594,796	13.72
他会計補助金	8,000,000	0	8,000,000	—

## イ. 費用比較

水道事業費用は、1,378,775,147円で、前年度と比較して8,726,635円(0.64%)の増加となりました。

営業費用は、1,357,319,175円で総費用の98.44%を占めており、前年度と比較して、増加した科目は、原水及び浄水費20,766,533円(3.75%)、減価償却費23,899,278円(4.87%)です。

一方、減少した科目は、配水及び給水費9,494,510円(7.66%)、受託工事費5,265,755円(73.65%)、総係費7,575,207円(6.84%)です。結果、営業費用全体としては、12,608,749円(0.94%)の増加となりました。

営業外費用は、21,455,972円で総費用の1.56%を占めており、前年度と比較すると、支払利息及び企業債取扱諸費で2,537,551円(12.05%)減、雑支出で1,344,563円(31.41%)減、営業外費用全体では3,882,114円(15.32%)の減少となりました。

なお、今年度は特別損失の計上はありませんでした。

科目	令和2年度(円)	令和元年度(円)	増減額(円)	増減比(%)
水道事業費用	1,378,775,147	1,370,048,512	8,726,635	0.64
営業費用	1,357,319,175	1,344,710,426	12,608,749	0.94
原水及び浄水費	574,416,025	553,649,492	20,766,533	3.75
配水及び給水費	114,520,164	124,014,674	△ 9,494,510	△ 7.66
受託工事費	1,884,356	7,150,111	△ 5,265,755	△ 73.65
総係費	103,119,279	110,694,486	△ 7,575,207	△ 6.84
減価償却費	514,617,386	490,718,108	23,899,278	4.87
資産減耗費	48,761,965	58,445,764	△ 9,683,799	△ 16.57
その他営業費用	0	37,791	△ 37,791	△ 100.00
営業外費用	21,455,972	25,338,086	△ 3,882,114	△ 15.32
支払利息及び企業債取扱諸費	18,519,682	21,057,233	△ 2,537,551	△ 12.05
雑支出	2,936,290	4,280,853	△ 1,344,563	△ 31.41
特別損失	0	0	0	—
災害による損失	0	0	0	—
過年度損益修正損	0	0	0	—

## ウ. 単位当たり収益費用の比較

令和2年度の有収水量1m<sup>3</sup>当たりの収益、費用を前年度と比較すると次の表のとおりです。

有収水量1m<sup>3</sup>当たりのコストを費用別に前年度と比較すると、減少したものは、配水及び給水費1.78円、総係費1.44円、資産減耗費1.72円、その他営業費用0.01円、支払利息及び企業債取扱諸費0.45円、雑支出0.23円です。

一方、増加したものは、原水及び浄水費2.63円、減価償却費3.25円、長期前受金戻入益0.75円です。

(単位:円/m<sup>3</sup>)

区分	収益		区分	費用	
	令和2年度	令和元年度		令和2年度	令和元年度
給水収益 (供給単価)	197.56	199.85	原水及び浄水費	96.26	93.63
			配水及び給水費	19.19	20.97
その他営業収益	3.09	3.41	総係費	17.28	18.72
受取利息配当金	0.22	0.32	減価償却費	86.24	82.99
他会計負担金	0.04	0.00	資産減耗費	8.17	9.89
長期前受金戻入益	50.47	51.22	その他営業費用	0.00	0.01
雑収益	0.83	0.73	支払利息及び企業債取扱諸費	3.11	3.56
他会計補助金	1.34	0.00	雑支出	0.49	0.72
小計	253.55	255.53	小計	230.74	230.49
受託工事収益	0.32	1.21	△長期前受金戻入益	△ 50.47	△ 51.22
合計	253.87	256.74	合計(給水原価)	180.27	179.27

## エ. 人件費(職員給与費)

令和2年度の損益勘定職員給与費は、59,431,926円で、総費用に占める割合は、4.31%となっています。

職員給与費の給水収益に対する割合は5.04%で、前年度と比較して0.44ポイント高くなりました。職員1人当たり有収水量及び営業収益は、水道事業における労働生産性をもっとも端的に表すものといわれており、いずれの数値も令和元年度経営指標の約1.3倍になっています。

区 分	令和2年度	令和元年度	比較増減	令和元 指標
損益勘定職員(人)	10	7	3	—
損益勘定職員給与費(円)	59,431,926	54,399,823	5,032,103	—
職員1人当たり有収水量 (m <sup>3</sup> )	596,720	844,709	△ 247,989	463,099
職員1人当たり営業収益 (千円)	119,732	171,691	△ 51,959	83,791
職員1人当たり給水人口 (人)	5,687	8,141	△ 2,454	4,226

※職員及び職員給与費については令和2年度より会計年度任用職員人数及び会計年度任用職員給与費を含む。  
令和2年度10人(うち会計年度任用職員3人)、令和元年度7人(ほか嘱託職員2人)

オ. 水道料金の収入状況(税込み)

令和2年度の水道料金収入状況は、次表のとおりです。

当年度分の収納率は、92.07%となり前年度と比較して0.01ポイント増加、過年度分の収納率は、95.70%で前年度と比較して0.16ポイント増加しました。

また、口座振替による入金は、月末振替翌月収納となるため、3月分の口座振替額(85,526,802円)を収入済みとみなすと、実質的には当年度分の収納率は、98.67%となり、前年度と比較して0.02ポイント増加しました。

区 分		令和2年度	令和元年度	増減額(円)	増減比(%)
当年度分	調定額(円)	1,296,741,327	1,285,993,017	10,748,310	0.84
	収入済額(円)	1,193,919,481	1,183,864,724	10,054,757	0.85
	収納率(%)	92.07	92.06	—	—
過年度分	調定額(円)	106,723,521	103,332,036	3,391,485	3.28
	収入済額(円)	102,088,698	98,462,704	3,625,994	3.68
	不納欠損	45,058	274,104	△ 229,046	△ 83.56
	収納率(%)	95.70	95.54	—	—

カ. 経営分析比率

収益性を示す総収支比率は109.87%で前年度と比較して0.94ポイントの減少、単年度黒字の目安となる経常収支比率は109.87%で前年度と比較して0.94ポイントの減少、上水道固有の事業に関わる営業収支比率は88.33%で前年度と比較して1.52ポイントの減少となりました。

(単位:%)

区 分	算 式	令和2年度	令和元年度	令和元指標
総収支比率	総収益/総費用×100	109.87	110.81	111.21
経常収支比率	経常収益/経常費用×100	109.87	110.81	111.17
営業収支比率	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$	88.33	89.85	100.06

④ 財政状態について

最近2年間の貸借対照表は、④－1表のとおりです。資産合計は、前年度と比較して288,737,561円減少しました。その内訳は、固定資産は155,879,908円減少し、流動資産は132,857,653円減少しました。

また、負債・資本の合計も288,737,561円減少しました。その内訳は、固定負債が103,808,184円減少、流動負債が188,638,884円減少、繰延収益が132,361,030円減少、資本金が98,654,335円増加、剰余金が37,416,202円増加しました。

④－1表

	令和2年度(円) (A)	令和元年度(円) (B)	比較増減(円) (A)－(B)	前年度比(%) (A)/(B)	構成比率(%)	
					令和2年度	令和元年度
固定資産	12,807,757,250	12,963,637,158	△ 155,879,908	98.80	84.99	84.40
流動資産	2,262,385,540	2,395,243,193	△ 132,857,653	94.45	15.01	15.60
資産合計	15,070,142,790	15,358,880,351	△ 288,737,561	98.12	100.00	100.00
固定負債	779,853,158	883,661,342	△ 103,808,184	88.25	5.18	5.75
流動負債	374,248,176	562,887,060	△ 188,638,884	66.49	2.48	3.67
繰延収益	6,115,790,496	6,248,151,526	△ 132,361,030	97.88	40.58	40.68
資本金	6,566,502,279	6,467,847,944	98,654,335	101.53	43.57	42.11
剰余金	1,233,748,681	1,196,332,479	37,416,202	103.13	8.19	7.79
負債資本合計	15,070,142,790	15,358,880,351	△ 288,737,561	98.12	100.00	100.00

④-2表は、財務状態を示す指標です。

事業の安全性を見る視点として、自己資本構成比率については90%を超え、財務状況は安定しています。固定比率については100%を下回っており、流動比率(適正な比率は、200%以上)は、604.51%です。財務状況は安全かつ安定的な経営状態となっているといえます。

④-2表

区 分	算 式	令和2年度	令和元年度	令和元指標
固定資産構成比率(%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産} + \text{流動資産} + \text{繰延資産}} \times 100$	84.99	84.4	86.47
固定負債構成比率(%)	固定負債/負債資本合計×100	5.17	5.75	24.58
自己資本構成比率(%)	$\frac{\text{資本合計} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	92.34	90.58	71.67
固定資産対長期資本比率(%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{資本合計} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$	87.15	87.62	89.84
固定比率(%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本合計} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$	92.04	93.18	120.64
流動比率(%)	流動資産/流動負債×100	604.51	425.53	360.86
流動資産回転率(回)	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産})/2}$	0.514	0.494	0.643

以上が令和2年度の事業概況であります。

本年度に策定した「美濃加茂市新水道ビジョン」の基本理念である「生活を支える、安全で強い水道を次世代に」の実現に向け、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点から、気象・災害及び危機管理リスクを踏まえた対策の実施や、人口減少などの社会環境の変化を見通した事業運営の効率化を推進し、引き続き、安定給水能力の向上に努めてまいります。